令和５年７月　定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時　令和５年７月５日（水）午後２時００分～３時１０分
場所　市役所２階　第３委員会室
出席　市政記者クラブ１０社　１４名

会見内容

１．話題提供（４項目）

はじめに　阿寒湖温泉で目撃されていたヒグマの捕獲について

■　はじめに、阿寒湖温泉地区でのヒグマの駆除についてです。
■　６月９日から体長約１ｍのヒグマ２頭の目撃情報がありそれから１４日間、延べ１９件の目撃情報がありました。多い時で１日に３回の目撃がありました。
■　地元のハンターの協力をいただきながら、警察・行政が連携して進め、６月２６日に捕獲することができました。
■　北海道を含めた関係機関、阿寒地区ヒグマ対策連絡会議を開催しながら、地域住民の安全安心を確保するため、子どもたちの通学等の対応などを実施しました。カムイルミナも一時中止となるなど、大変な状況でした。
■　爆竹を使うなど、追い払い対応を行いましたが、音には反応するものの、火薬のにおいを知らない・恐れないため、苦慮しました。
■　６月２６日ハンター２名、警察官３名により、ボッケ遊歩道を巡回し、「森のこみち」と呼ばれる山の斜面の発砲が可能な地域で駆除しました。
■　ヒグマ対策会議の中で確認した北海道のマニュアルに則った対応となります。
■　今回の事例では、追い払いを行ったものの、火薬のにおいに反応が無く、効果が得られなかったことなどを踏まえながら今一度、しっかりと検討する必要があります。北海道に要請をしますが、今、試験的に行っている春期管理捕獲の実施に向けどのような形をとっていくのかを踏まえながら、ヒグマの対策をしっかり進めるため、相談しています。
■　阿寒湖温泉地区は観光地のため、大変不安な状況でありましたが、一旦整理することができて、次なる課題に取り組んでいる状況です。

１　釧路市政策アドバイザーの任命について

■　一点目が釧路市政策アドバイザーの任命についてです。
■　７月１日付けで、「建築・不動産・まちづくりプロデュース」会社経営者の和泉　直人氏を釧路市政策アドバイザーとして任命しました。
■　和泉氏は釧路市出身であり、ニューヨークで空間デザインとアパレルデザインを学び、帰国してから不動産会社や住宅設計事務所での勤務を経て、まちづくりに関する事業に携わって来られた方です。
■　２０２０年にはこれまでのノウハウを活かして独立され、２０２０年・２０２１年と連続してグッドデザイン賞を受賞するなど広くご活躍されております。
■　釧路市においても「リノベーションによるまちなか再生」をテーマとした市民団体「くしろリデザインプロジェクト・ユニット」の発起人であるほか、２０１９年度には、耐震旅客岸壁がある幸町緑地の新たな使い方として、野外映画やグランピングを企画されるなどまちなかでの賑わい創出の取り組みに携わっておられます。
■　また、今年度より本格運用を開始した、ＭＯＯ５階のコワーキングスペースのデザイン部分へのアドバイスをいただくなど、主に中心部におけるまちづくりの分野において、幅

広い事業経験に基づいた助言をいただいております。

■　現在、釧路市では、駅周辺から北大通、リバーサイドまでの中心エリアの賑わいづくりに取り組んでおり、関係する各部署が相互に連携し横断的に取り組みを展開していくにあたって、和泉氏へ政策アドバイザーをお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただけることとなったものであります。

■　今後、釧路市の中心市街地やリバーサイドの賑わい創出をはじめ、様々な機会で、ご助言をいただきながら進めて行きたいと考えています。

２ 釧路市と株式会社モンベルとの包括連携協定について

■　二点目が、釧路市と株式会社モンベルとの包括連携協定でございます。

■　この度、釧路市と株式会社モンベルとのアウトドア活動などの促進を通じた地域の活性化及び住民生活の質の向上を図るということを目的といたしまして、７月１２日付で包括連携協定を締結することとなりました。

■　モンベル様はアウトドアを基軸とした新たな取り組みとして、地方自治体や公的機関、企業、教育、学術団体、医療機関等と包括連携協定を締結しているところであり、令和５年７月１日現在で、全国１２７カ所、道内においては、１０の自治体と協定や包括連携協定を締結しているところでございます。

■　モンベル様におかれましては、令和４年１０月１日に釧路市と弟子屈をフレンドエリア登録いただいているところでございます。

■　今回、連携することになりました協定項目につきましては、「自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること」「地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること」など、７つの分野において相互に連携・協力し、包括連携協定を締結する運びとなったところございます。

■　今後の予定につきましては７月１２日に、大阪市のモンベル本社におきまして、包括連携協定式を開催する予定となっております。詳細につきましては後日改めましてご案内いたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

３　ちびっこマンデーの遊具の拡充について

■　三点目がＭＯＯ５階のちびっこマンデーの遊具の拡充についてです。

■　こどもの遊び場も含めて子育て環境をしっかり進めていくことに取り組んでおり、ちびっこマンデーは、毎週月曜日にＭＯＯ５階多目的アリーナを保護者同伴の乳幼児に無料開放している事業です。

■　利用いただいた皆様からは、「月曜日に利用できるのでありがたい」「屋内なので目が行き届くので安心」など大変好評をいただいているところです。

■　一方、利用された方へのアンケートにおきまして、遊具の充実を要望されるご意見も多くあったことから、この度、新たに大型遊具の「チューブスライダー」を７月１８日（火曜日）に設置することになりました。

■　このスライダーは、多目的アリーナの２階のフロアから１階に降りるチューブ型の滑り台になっております。この他にも小型の滑り台や船形の遊具等もあわせて設置されますので、こどもたちに遊んでいただける環境がさらに充実したと考えております。

■　これらの遊具のつきましては、令和４年１２月２日に株式会社昭和冷凍プラント様から遊具の充実をということでご寄付いただいたものであり、こちらを活用させていただいたものであります。

■　７月１８日（火曜日）１１時から「チューブスライダー」のお披露目式を開催し、その

後、皆様に「チューブスライダー」をご利用していただければと思います。

■　また、先ほどお話しした昭和冷凍プラント様からの遊具のご寄付でございますが、まだ全部はそろっていない状況です。この後、９月以降も、空気で膨らませる筒状の遊具やマットなど順次導入される予定であり、季節や気候に関わらず利用できる、しっかりとした環境を作っていくということでスタートするものであります。

２．質疑要旨

（質問）

・ヒグマについて、６月９日から２週間目撃され続けており、今回たまたま人との接触がなく大きな事故につながりませんでしたが、今後ヒグマがまた出てくると考えたときに、駆除体制の強化が必要と考えますが、市として考えているものはありますか。また、観光地でありますので、ヒグマ出没において地元のホテルでは宿泊のキャンセルが何件か発生しています。そこで観光客向けの情報発信など何かお考えはありますか。

（市長）

・今回は駆除を行いましたが、今後どのように進めていくか相談しているところです。先ほど説明しましたように火薬のにおいを恐れない状況、また発砲するにはエリアが限定されること、広範囲に目撃された場合は罠の設置が難しくなることなどが大きな課題になってくるものと思っています。春のヒグマの親離れ時期に今回の事例が発生しています。幸いにも阿寒地域に３名のハンターがおり、協力いただいておりますので、「春期管理捕獲」をどのように行っていくかについては、相談しながら進めていきたいと考えております。
観光地としましては、カムイルミナの中止やホテルのキャンセルがありました。ホテルのキャンセルについては、ヒグマの影響だけではありませんが、全体で２１００件あったと伺っております。人と自然の共生という事もありますが、市街地でありますので、来年に向けた対応策をとっていく必要があります。現状でも速やかな対応はとっておりますが、根本的解決になり得ない状況ですので、今のところは新規の対応になると思っています。これらを合わせて相談しているところであり、また、北海道へ要請している状況です。

（質問）

・阿寒湖畔の経済的損失を確認させてください。

（市長）

・キャンプ場閉鎖とカムイルミナの中止を合わせて約３６０万円になります。ホテルのキャンセルはヒグマの影響だけではありませんが、その期間に２１００件ありました。

（質問）

・「春期管理捕獲」については、すでに北海道庁に要請を行った状況ですか。

（市長）

・釧路総合振興局には要請いたしました。この後７月２５日の期成会要望の時に本庁に要請する予定で進めています。

（質問）

・「春期管理捕獲」を再開してくださいという主旨ですか。

（市長）

・今は試験的に再開したところで、極めて任意という形であり、それぞれの自治体の判断となっています。これだけ全道各地で問題となっていることからも、春の親離れの時期にヒグマが人を恐れるための施策が必要であり、自治体が取り組みやすい環境づくりを要請しているところです。

（質問）
・政策アドバイザーについて、これまでも任命されていると思いますが、改めて政策アドバイザーを任命する効果と和泉氏に期待することをお聞かせください。
（市長）
・政策は現場の実態を把握しながら課題解決や方向を決めていくことが重要になります。ところが、我々が地域の中で考えるとエリアの中での発想にとらわれがちになってしまいます。あわせていろいろな情報の深いところを得るために外からの視点があることによって、より良い政策に結びついていくと思っています。もちろん新型コロナウイルスの時もいろいろアドバイスをいただきましたが、専門的な意見も必要になります。まさにこういったことが政策アドバイザーに期待しているところです。
今回の和泉直人氏については、まさに世界の事を見ていきながら様々な地域のまちづくりを実践されており、その観点から新たな切り口などが出てくることを期待し、それについてしっかり議論し進めていきたいと思っています。
（質問）
・どの事業から始動していきますか。
（市長）
・すでにたくさん進めています。「リノベーションによるまちなか再生」など様々な分野で来釧されており、お話をいただいています。まずは賑わい創出について様々なご意見をいただければと思っています。

（質問）
・モンベルとの包括連携協定について、９月に道内で開催されるＡＴＷＳを見据えたものと思うのですが、経緯をお聞かせください。
（市長）
・アドベンチャートラベルとは別の部分であります。モンベル様とは６、７年前からエコツーリズムの観点で進めております。今回、地域の中の豊かな自然や持続可能な社会において、自然を守っていきながら共生していく中で、モンベル様の取り組みとマッチングできるという思いであります。あわせて地方都市に目を向けていくモンベル様の取り組みですので、その観点でさらに前に進めていくため協定を結ぶことになりました。
（質問）
・協定を結ぶことで、釧路市内に店舗を構えるということはありますか。
（市長）
・期待しています。
（質問）
・具体に決まっているわけではないのですか。
（市長）
・そうです。しかし、いろいろな地域でそのように進んできていますし、我々も街の賑わいについて取り組んでおり、違う観点ですが、自然を大事にしている地域にも出店いただければと期待しています。
（質問）
・全国１２７か所、道内１０か所と協定を結んでおられるとのことで、協定を結ぶにあたり他の地域の取り組みを研究されたと思いますが、今後の取り組みについて、思い描いているものがあれば教えてください。
（市長）
・モンベルがこの地域に出店していただければありがたいと思う中で進めてきましたが、会社としても様々な地域と信頼関係を築きながら進めていく進め方であり、今回の締結まで

歩み進めてきたところです。特に今、締結によって何かを進めるということではなく、今まで行ってきたところをベースに協定を結んだという意味合いの方が強いです。ですから、これが出店につながるというものではありませんが、取り組みを進めていければと思います。今はやはり、自然環境や健康志向もあり良い形に結びつけていきたいと思っています。

（質問）
・インターハイが近づいてきましたが、総会の時に意見が出ていました、試合の進行状況はどの様に発信されるのですか。また、女子バレーというインターハイの花形競技が開催されるにあたり、これをきっかけにバレーボールの活性化に向けた取組を考えていますか。
（市長）
・試合の放送は「インハイＴＶ」が権利を持っており、独自に発信することはできませんことから、我々は試合の結果を市ホームページやＬＩＮＥなどでいち早く発信する形になります。
まさに女子バレーは花形スポーツでありますけれども、バレーボールに限らずスポーツ全体の取り組みということになります。スポーツの楽しさやすばらしさにより関心が高まることで、我々もスポーツ施設の改善や地域のスポーツクラブとの連携などをしっかり進めていくことになると思っています。こういった機会にスポーツはまちづくりに大きく寄与するものですので、各団体と相談しながら進めていきたいと思います。

（質問）
・東北海道クレインズのふるさと納税が国税局に差し押さえられたことについて、市長にはいつ頃報告がありましたか。また、市長の受け止めをお聞かせください。
（市長）
・差し押さえについては、３月１３日に報告を受けました。本当にどうすることもできないことですが、ご寄附いただいたものが差し押さえられたということで、残念だという思いでした。
（質問）
・市長としては問題だと感じましたか。
（市長）
・ルールはルールとしてありますが、これはどうなんだということがありました。そこで、中身を踏まえまして、ふるさと納税による支援の停止の準備を進めました。
（質問）
・前回の記者懇談会で、支援の停止については遅配の影響が大きいという話がありましたが、差し押さえられたことも大きな要因でしたか。
（市長）
・もちろん差し押さえがスタートでした。ふるさと納税の仕組みで会社が支援してくるわけですので、ご寄附をした方々の気持ちになった時に、仕方がないことではありますが、本意ではないだろうと思いました。そこで、ルールだからそのままでいいということにはならないだろうと止めることになりました。相手方にもお話していかなければならないことですので、対応してきたということです。
（質問）
・クレインズの選手の発表がない状況で、このままでは参戦がどうなのかという中、市としてクレインズに対する支援はありますか。
（市長）
・経営の透明性や健全性を早く確保していただきたいと思っています。大前提として、氷都くしろとして、日本製紙クレインズの時からアイスホッケーをどのように支援していくの

か相談してきました。一つの考え方としてプロチームということです。そのためには、アジアリーグへの参戦が一つあります。市内にはクラブチームがあり、みんなで支えていますが、市として支援をしていない実態があります。日本製紙が廃部を決めた中で、プロチームをどのように存続させるのかという観点で、リンクの使用料など様々対応していきながら、あわせて企業版ふるさと納税の対応をしてきたところです。そういった意味では、プロチームというところが大きな枠組みとしてあります。そのうえで、経営の透明性や健全性があると思っています。この観点で進めていきます。

（質問）

・クレインズとの包括連携協定は止まっていないのですか。

（市長）

・プロチームとしてアジアリーグへの参戦が大前提になります。その後、経営の透明性や健全性が示される必要があります。基本的には協定は結んだままでありますので、そこの課題がどうなるのかであります。ワイルズとの関係もあると承知していますし、選手の皆様の気持ちもわかります。しかし、私どもはこれまで行ってきたことを踏まえた中で考えております。

（質問）

・ワイルズが元クレインズの選手ということになっています。ワイルズは標茶町とも協定を結びましたが、釧路市はワイルズに対し協定などのサポートを考えていますか。

（市長）

・大前提としてプロチームであることとして進めています。アジアリーグになかなか受理されない状況でありますので、そこが大きな課題になると思っています。頑張って頂いている選手の皆様には何とかサポートしたい気持ちはありますが、現状はそのようになっています。

（質問）

・リーグの判断を待つということですか。

（市長）

・もちろんです。これまでプロチームへの支援を行ってまいりましたので、今は状況を見ているところです。

（質問）

・前回の会見で、選手一人ひとりがベースとなりバックアップしていくとおっしゃられていました。選手たちはクレインズに戻らずワイルズでやっていきたいと声明も出されています。選手をバックアップしたいとおっしゃられている中、選手の声明についてどのように感じていらっしゃいますか。

（市長）

・選手であれば、氷上で歓声を受けてアイスホッケーをしっかり行っている方ばかりでありますが、その状況においてもひがし北海道クレインズではやらないという個々の気持ちや感情ですので、そこまで溝が深まっていることは、大変残念であり、大変な状況だと思っています。できることであれば、選手全員がプレーできるような環境になってほしいという思いですけれども、個々の話ですので今後の推移によるものと思っています。選手一人ひとりの気持ちを理解しておりますが、いろいろな対応の仕方になりますとやはり個々の選手ではなく、チームに対応せざるを得ないという現実です。

（質問）

・直接市長が選手と対談や気持ちを聞く機会を作る考えはありますか。

（市長）

・ひがし北海道クレインズにはこちらの考え方を伝えていますが、具体にどうできるかはアジアリーグの判断になりますので、そこを踏まえてからではないといろいろな動きは難し

いと思っています。
（質問）
・アジアリーグの判断が出ないと選手と会うことは難しいですか。
（市長）
・厳しいと考えています。
（質問）
・クレインズから新体制の発表がない中で、８月からリンクをクレインズが使う予定となっており、減免などの対応があると思いますが、市としてクレインズの体制や９月の新シーズンに向けての確認状況はどうなっていますか。
（市長）
・正確には伺っていませんが、アジアリーグからも経営の透明性や健全性の観点での話がいっていると聞いております。私どももその点に関してはしっかりと示していただきたいと思っています。決算もこれから発表されると思いますし、その中でしっかり説明いただきたいと思っています。
（質問）
・市からは問い合わせは行っていないのですか。
（スポーツ課長）
・６月、７月に評議会の実施をお願いしているところです。
（質問）
・選手がクレインズからワイルズに移り、ワイルズはアジアリーグから参戦が認められていない、クレインズは新体制を発表しないという状況です。９月１６日からの新シーズンが始まるときに、競技人口が１４００人いる釧路のトップリーグから参戦できない事態になるやもしれない。こういう事態に直面している中で、市長の思いを改めて聞かせてください。
（市長）
・氷都くしろとして、アイスホッケーに対する市民の思いは大変強いものがあります。日本製紙クレインズの時代から様々な思いがありますので、大切な文化であり財産だと思っています。競技場も数多くある都市はなかなかないと思います。これらをしっかり守っていこうということが、このまち全体の意向ですから、極めて大切なことだと思っています。そういった状況の中で、プロのチームということになってきますと、運営していくためには単なる思いとは別にお金という現実が必要になってくると思います。そこには経営の透明性に向けて、アイスホッケーがもっと多くの方に観戦いただき支援なく運営できる環境であればいいのですがそこには至っておりませんので、皆様がバックアップを行っている状況です。我々もそういう思いで支えています。リーグや会社の方々もそういった環境の中で成り立っていることをご理解いただき、双方が環境を作っていくことが重要だと考えています。一人ひとりの思いは理解できるところですが、これからのアイスホッケー人口も含めて盛り上げていくために、より良い折り合いの場所を作って頂きたいと願っているところでございます。

（質問）
・市内の精神科医療に関して、先日の市議会で市立病院の新患受付が４か月待ちになっているとの答弁がありました。状況が刻々と悪化していると思いますが、この状況の市長の受け止めをお聞かせください。また、市と保健所、医師会との連携がどのように進んでいるのかお聞かせください。
（市長）
・長く待たなければならないということで大変な状況であります。可能な範囲で病院には対

応いただいており、投薬中心のところと相談中心のところがあり、効率よく進めていただいておりますが、やはり先生の数が重視されます。新患の場合ですと診察に３０分から１時間要しますので、医師を確保しなければ前に進まないと思っております。この状況の中で、医師会と保健所と市の中では相談しているところでありますが、北海道への要請事項にも入れています。北海道内で医師を確保することはなかなか難しい状況であり、３医育大学で北海道内の医療体制を対応いただいていますが、そこにプラスした様々な取り組みをどのような形でできるかについて相談しています。恒常的な対応が理想ですが、緊急的な状況ですので具体に相談し何とか改善できるよう進めているところです。

（質問）

・道内でなかなか医師確保が難しいことや医療系大学との連携という話ですが、例えばオンライン診療で診るお医者さんはいないのでしょうか。

（健康推進課長）

・オンラインですので、全国を対象として行っている医療機関があることは承知しています。

（市長）

・平時の状況のプラスアルファの部分が失われた状況で、その部分をどのように埋めていくかということになります。平時の体制は北海道全体の中で、３医育大学のお力をいただき進めてきたものが、こういう時にどうするのかという受け止めです。今は釧路市ですが、全道どこでも起こりうることですので、どういう手法がとれるのかということです。特に精神科ということで、設備の問題も含めてどのようにできるのか。まだこういう言い方しかできませんが、相談しているところです。

（質問）

・太陽光発電所の規制のガイドラインについて、議会の一般質問でも出ていました。条例化についての考え方を聞かれていましたが、改めて条例化についての考えをお聞かせください。

（市長）

・ガイドラインを進めていくのと同時に、市としても管内と連携して期成会要望の中に要望事項として入れております。全国市長会においても同様の要請をさせていただいています。これらの動きを踏まえながら進めていくと議会でも答弁させていただきました。今はその状況です。

（質問）

・ガイドラインの効果を確認したうえで条例化を判断するということですか。

（市長）

・今要請しているところですので、国においてもいろいろ動きが出てくるというイメージです。ガイドラインの効果も見なければいけないことですが、全国各地から出ている太陽光発電の課題に対する何らかの対応策が国からも示されてくるものと思いますので、そこを踏まえてという観点です。

（質問）

・キタサンショウウオの産卵期を踏まえると、条例化するには早くても来年以降ですか。

（市長）

・そこまでは現実的にできません。市で決めることができる範囲がどのように変わるかなどがありますので、国の動きを見ていこうという考えです。

（質問）

・タイミングが重なりました根室市のガイドラインでは、事業者名の公表が盛り込まれていますが、釧路市ではそういった措置を盛り込むガイドラインの改定の考えはありますか。

（市民環境部次長）

・条例に適した条項であり、ガイドラインで盛り込むには適していないという判断をしました。
（質問）
・ガイドラインの中身は都度見なおすという考えですか。
（市長）
・そういったイメージです。法律の中で進めているものでありますし、自然との共生をキーワードとした中で、カーボンニュートラルを止めるわけでもなく、しかし場所についてはしっかり考えていただきたいという思いで「乱立を防ぐ」意思を表明しています。こういった観点です。

（質問）
・クレインズについて、企業版ふるさと納税の相手に説明しなければならないと言っていましたが「相手」とは寄附をした人ですか。寄附者に市から説明は考えていないのですか。
（スポーツ課長）
・寄附者４件に対し、説明はしておりません。
（市長）
・３月１３日時点では言えない状況でした。現在はすでに情報公開請求がされており、公開できる状況ですので、今後寄附者に対して説明していきたいと考えております。
（質問）
・クレインズというプロチームを支援するとのことですが、選手が全員いなくなり、選手を確保できたとしても日本製紙時代からの選手が誰もいない状況のクレインズが出来上がります。その状況でもクレインズだから支援するということになるのですか。
（市長）
・本当につらい思いです。しかしながら、クラブチームもある地域の中で、プロチームを残していくための仕組みを構築しましたので、そこが一つの基準となります。今後様々なところと相談が必要と思っていますが、今はそういうルールで進めております。